

神経障害性疼痛治療薬の処方状況および 有効性・安全性に関する実態調査

患者さんの医療情報の研究利用について

神経障害性疼痛は「体性感覚神経系の病変や疾患によって引き起こされる疼痛」と定義され、脊髄や脳等の中枢性疾患、糖尿病、アミロイドーシス、帯状疱疹等多くの疾患に伴って発症します。神経障害性疼痛の治療薬として、「神経障害性疼痛薬物療法ガイドライン」においてプレガバリン等が推奨されていますが、漫然な使用による副作用の危険性も報告されています。当院においても、神経障害性疼痛を有する多くの患者にこれらの医薬品が用いられていますが、その処方状況および有効性・安全性に関して調査したことはありません。そこで、これまでに、北里大学東病院で神経障害性疼痛に対して薬物治療が実施された患者さんを対象に、神経障害性疼痛治療薬の処方状況(用法、用量、投与期間)や効果・副作用を調査し、明らかにする必要があると考えました。

研究対象となるのは、2007年3月1日から2017年2月28日までに北里大学東病院を受診し、ガバペンチン、プレガバリン、アミトリプチリン、イミプラミン、ノルトリプチリン、デュロキセチン、ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液、トラマドール、ブプレノルフィン、モルヒネ、オキシコドン、フェンタニルのいずれかが処方された入院または外来患者さんです。

本研究で調査する項目は、身体所見、診断名、処方薬の使用状況などで、すべて既存のデータのみです。これらの情報を分析・保存する上で、全ての患者さんは匿名化され、氏名などの個人情報は一切公表されることはありません。収集したデータは、当院薬剤部で分析され、外部に漏れることのないように厳重に管理されます。

本研究への診療情報の提供を拒否されたことで、患者さんに対して不利益が生じることは一切ありません。今回の研究で得られた結果は、個人が特定されないかたちで、学会や学術雑誌などに報告されることがあります。本研究の調査対象に該当する患者さんで、調査への診療情報の提供に同意されない方は2017年8月31日までにお申し出ください。また、本研究に関して、質問などがございましたら、以下の連絡先までご連絡ください。

〒252-0380 神奈川県相模原市南区麻溝台 2-1-1

北里大学東病院 薬剤部

電話番号 042-748-9111(代表)

研究代表者 薬剤師 川野 千尋 (カワノ チヒロ) (内線 33041)

研究協力者 薬剤師 黒山 政一 (クロヤマ マサカズ) (内線 2002)